

誰もが、誰かの、
たからもの。

令和8年度

学びの根っこをぐんぐん伸ばすプロジェクト 「学びの基盤に関する調査」研修

しまね教育振興ビジョン

基本目標

すべての子どもが
学びの主人公
〔一人ひとりを尊重する学校〕

実体験に根ざした
本物の教育
〔地域とともにある学校〕

挑戦心、探究心が育つ
学びの環境
〔子どもも大人も学び成長する学校〕

○ 期日及び会場

令和8年5月13日(水) 13:30~16:30 出雲合同庁舎 7階 702・703 会議室

5月14日(木) 13:30~16:30 浜田合同庁舎 2階 大会議室

5月15日(金) 13:30~16:30 松江合同庁舎 2階 講堂

隠岐合同庁舎 別館1階 会議室

島前集合庁舎 1階 第1会議室

島根県教育委員会

**令和8年度 学びの根っこをぐんぐん伸ばすプロジェクト
「学びの基盤に関する調査」研修（島前会場） 実施要項**

- 1 **目的** 「たつじんテスト」実施校に対し、「たつじんテスト」の理論的背景と活用事例、調査結果の分析の仕方や予想される児童生徒の学習のつまずき、それに対する支援の手立てについて、説明、情報提供をし、各校の児童生徒の実態に応じた組織的な授業改善の取組が推進されるよう支援する。
- 2 **期日・会場** 5月15日（金） 13:30～16:30 島前集合庁舎（〒684-0302 隠岐郡西ノ島町大字別府字飯田56-17）
【講師】 一般社団法人 今井むつみ教育研究所 所長 今井むつみ 氏
- 3 **対象** ・たつじんテスト実施校の実施学年の担任等1名（悉皆）
・たつじんテスト実施の市町村教育委員会で参加を希望する担当者
- 4 **日程と研修内容**

第1日 令和8年5月15日（金） 受付 13:00 ～ 13:25 島前集合庁舎1階 第1会議室	
時間	13:30～16:30
(1)日程	
13:30 ～ 13:40	開講行事
13:40 ～ 15:20	講義① 一般社団法人 今井むつみ教育研究所 所長 今井むつみ 氏
15:20 ～ 15:30	休憩
15:30 ～ 16:20	講義② 一般社団法人 今井むつみ教育研究所 所長 今井むつみ 氏
16:20 ～ 16:30	閉講行事
※講義は、オンライン中継で実施いたします。	

- ・携行品
 - ・レジュメ、研修資料
※研修日までに学校ページ・マイページのキャビネットに投稿いたします。研修情報システムよりダウンロードし、印刷または利用できるようにしておいてください。
 - ・参考資料（当日使用は致しませんが、参考として参照してください）
「広島県学びの基盤に関する調査」を活用した児童の学びへの支援について（タブレット等にダウンロードしての持ち込み可）
※しまねの教育情報Web（EIOS）からダウンロードできます。
> 配付資料> 学校・市町村教育委員会への配付資料（旧フォルダ名：教育指導課）
> 「たつじんテスト」等についての資料

5 連絡事項

- (1) 感染症拡大予防のため、発熱や咳など風邪の症状がある場合、無理せず休むようにしてください。また、マスクを準備し必要に応じて着用してください。
- (2) 名札（学校名と名前がわかるもの）をお持ちください。
- (3) 県教育委員会指導主事等が講師の場合は、原則講義の録音、提示資料の写真撮影を行っても構いません。ただし、外部講師に限っては、禁止とする場合があります。
パソコン・タブレットの持ち込みは、資料の持ち込みやノート記録の代わりとしての使用については問題ありません。
- (4) 遅刻・早退・欠席の場合には、担当者に早急に管理職を通じて連絡してください。また、研修情報システムを通して申請してください。
- (5) 実施校からの参加者の旅費は指定旅費（事業コード7360-03）で対応をお願いします。また、市町村教育委員会からの参加者の旅費は、各市町村教育委員会で対応をお願いします。
- (6) 駐車場の収容台数に限りがあるため、駐車できない場合があります。できるだけ公共交通機関を利用してお出かけください。
- (7) 5月から10月末まで、担当者はクールビズノーネクタイ等の軽装で勤務していますので、ご理解ください。なお、受講者の方々も、クールビズ軽装でお越しください。
- (8) 研修に際して配慮が必要な方は、事前に管理職を通じて担当者までご相談ください。
- (9) この研修について不明な点がございましたら、次の担当者にお問い合わせください。

島根県教育庁学校教育課 義務教育推進室

指導主事 大谷 淳司 TEL 0852-22-6607

※ 当日の連絡 TEL 080-8982-4892

本日の研修のねらい

- 「たつじんテスト」の理論的背景と活用事例、調査結果の分析の仕方や予想される児童生徒の学習のつまずき、それに対する支援の手立て等について理解を深めるとともに、各校の児童生徒の実態に応じた組織的な授業改善の取組の推進を図る。

講師紹介

一般社団法人 今井むつみ教育研究所 所長 今井 むつみ 氏

慶応大学名誉教授

文部科学省 中央教育審議会 専門委員 (2025年1月～)

日本認知科学学会フェロー。Cognitive Science Society Fellow (アジア初)

専門分野：認知科学、特に認知心理学、言語心理学、発達科学、人間の「ことば・思考・学び」のメカニズム解明を中心に研究、子どもの言語習得や学力形成、思考プロセスに関する研究

学位：Ph. D. (ノースウエスタン大学 1994年)

主な学歴：

1989年3月：慶應義塾大学社会学研究科後期博士課程修了

1990年9月：ノースウエスタン大学心理学部大学院博士課程に編入

1994年1月：ノースウエスタン大学より博士号 (Ph. D) 取得

主な受賞：

1994年 APA (American Psychological Association) Dissertation Award
(国際心理学会 優秀博士論文賞)

1995年 発達科学教育奨励賞

1998年 日本認知科学学会特別賞

2007年 日本心理学会国際賞奨励賞

著書：

『言葉をおぼえるしくみ—母語から外国語まで』 (2014年 ちくま学芸文庫)

『学びとは何か—<探究人>になるために』 (2016年 岩波新書)

『親子で育てる言葉の力と思考力』 (2020年 筑摩書房)

『英語独習法』 (2020年 岩波新書)

『算数文章題が解けない子どもたち—ことば・思考の力と学力不振』 (2022年 岩波書店)

『言語の本質』 (2023年 中公新書)

『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか？ 認知科学が教えるコミュニケーションの本質と解決策』 (2024年 日経BP)

『学力喪失—認知科学による回復への筋道』 (2024年 岩波新書)

『人生の大問題と正しく向き合うための認知心理学』 (2025年 日経BP)

『アブダクション英語学習法 認知科学者がAI時代に伝えたい独学の技法』 (2026年 日経BP)

など多数

13:40～15:20

○講義①

一般社団法人今井むつみ教育研究所 所長 今井 むつみ 氏

15:30～16:20

○講義②

一般社団法人今井むつみ教育研究所 所長 今井 むつみ 氏

第2期しまねの学力育成推進プラン

令和8年度 重点アクション(たつじんテスト活用編)

たつじんテストの分析結果を授業改善と個別支援にいかし、
学校全体で学びを深めましょう

授業を「つまずき」の視点からも捉えてみましょう

チームで取り組む「たつじんテスト活用ステップ」

ステップ	内容
①気づく	たつじんテストにより、児童生徒のつまずきに気づく
②考える	気づいたつまずきを踏まえ、各教科等での支援を考える
③行う	授業や生活において、具体的な支援を行う
④共有・授業改善	学校全体で指導や支援の工夫を共有し、授業改善を行う

※このステップを通して、授業改善や個別支援の工夫につなげます。

Q₁ たつじんテストとは？

A 児童生徒のつまずきの原因を理解するためのアセスメント

教科学力の基盤となると考えられる「言葉、語彙」「数、形、量」「思考力、推論力」等について調査を行い、一般の学力調査では見取りにくい児童生徒のつまずきを把握し、授業改善や個別支援につなげることを目的としています。

Q₂ たつじんテストの活用を通して目指すことは？

A 児童生徒が「分かる」喜びを実感し、主体的に学ぼうとする意欲を高めること

※つまずきを踏まえた授業改善や個別支援を行い、「生きた知識」の育成を重視します。

「生きた知識」とは、必要な時に取り出し、他の知識と組み合わせることで問題解決につなげることができる知識のことです。

具体的な取組を支える資料

たつじんテストWebシステム、しまねの教育情報Web(EIOS)等

○たつじんテストWebシステム

たつじんテストの結果を分析し、児童生徒のつまずきに対し、どのような支援が考えられるかを検討するための資料です。日々の授業改善にご活用ください。

○しまねの教育情報Web(EIOS)

・たつじんテストに関する資料 ・開発者である今井むつみ氏の講演動画 ・研修資料 等
児童生徒の学びの支援に役立つ資料を掲載しています。授業改善や校内研修等にご活用ください。

令和7年度 学びの根っこをぐんぐん伸ばすプロジェクト 「学びの基盤に関する調査」(たつじんテスト)の取組事例紹介

今年度から本格実施している本事業では、8月に県内3か所で研修を行い、調査実施校の先生方に参加していただきました。この研修では、たつじんテストの開発者である今井むつみ先生による講義と演習を行いました。

演習では、1学期に各学校で実施した、たつじんテストの結果を分析し、子どものつまずきに対しどのような支援ができるのかについて先生方に検討していただきました。この内容を「たつじんテスト Web システム」に登録しています。

現在、この Web システムには、先生方が入力された具体的な事例が 180 件以上登録されています。登録された内容は、下の URL もしくは二次元コードから閲覧できます。日々の授業改善にご活用ください。また、新たな事例につきまして、随時、登録をお願いします。

〈たつじんテスト Web システム〉

<https://41f09d97.viewer.kintoneapp.com/public/def00000bcb5efab92bd5c7f70941126609a4b68fa699756898f04a72240bbac>



たつじんテスト
Web システム

登録いただいている事例の一部を紹介します。

学年	教科	たつじんテストの大問タイトル
小学校3年生	国語	うごきのことば
〈つまずきの事例〉 ・自分の言いたいことを上手に表すことができない。 ・文章の要点理解が難しい。		〈指導・支援の内容〉 ・言葉の動作化を行い、言葉への理解を深める。 ・言葉の意味や使い方を国語辞典を用いて確かめる時間を十分に確保する。 ・説明文、物語文に出てきた言葉を身近な言葉に置き換え、語彙を増やす。 ・言葉への理解を深めるため、言葉を適切に表現したイラストを提示し、イメージをもたせる。
小学校3年生	国語	あてはまることば
〈つまずきの事例〉 ・言葉を知らない(聞きなれていない) →世の中で使われることが減ってきているのではないか ・現代の社会で使いにくい、合わない言葉もある(例)手が足りない など		〈指導・支援の内容〉 ・体験や生活に結び付け、言葉を使う場面や意味をイメージしやすくする。(絵カードや寸劇など) ・学年に合わせた言葉ではなく、難しい言葉や知らない言葉を教師が普段から使っていくことで、子どもたちの語彙を増やしていく。
小学校4年生	算数	かずの大小
〈つまずきの事例〉 ・自然数の概念はあっても、分数の概念が定着していない。 ・分数について、量感を伴って理解をすることができていない。		〈指導・支援の内容〉 ・分数を具体物や図を使って表し、「1つを〇つに分けた△つ分」という、分母・分子それぞれの数の表す意味について復習する。 ・具体物や図を使って分数の大小比較を行い、分数の表す大きさについて実感を伴って理解できるように復習する。
小学校5年生	国語	みぎとひだり
〈つまずきの事例〉 ・自分の視点から見る左を、主体の左手と捉えている。		〈指導・支援の内容〉 ・概念の理解を意識するアクティビティやゲームの収集、開発。 例) 単位ゲームカード 漢字ビンゴ ・体験を通して、概念に対する意識を上げていくことが重要。

小学校5年生	算数	かたちのおりかえし
<p>〈つまずきの事例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形のイメージの心的操作に多くのつまずきが見られた。 ・頭の中で図形操作ができないことや、見える部分から見えない部分を推測することが難しい。 	<p>〈指導・支援の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の辺に色をつけるなどして焦点化する。 ・具体物を操作する。 ・説明書を見ながら折り紙を折る。 ・積み木やタイルを使って作品作りをする。 ・問題文を理解するために、丁寧に読み取っていく。 	
小学校6年生	算数	ずけいのかわりかた
<p>〈つまずきの事例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直感的に回答している。 ・線対称、点対称な図形といった既習の図形としてとらえていない。 ・2つの図形を見比べたとき、図形を頭の中で操作する動的なイメージを持っていない。 ・図形の性質に着目できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある図形だけでなく、いろいろな角度から見た図形を準備する。 ・自分の手で操作したり、ICTを活用して図形が動くイメージを広げたりする活動を充実する。その際、図形の性質を自分の言葉で説明できるようにする。 ・身の回りの物を既習図形として捉え直す学習を取り入れ、その際、図形の性質を自分の言葉で説明できるようにする。 	
中学校1年生	社会	あてはまることば
<p>〈つまずきの事例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な語彙が身に付いていない。 ・問題文で問われていることが分からない可能性がある。 ・教科書の文章の要点をつかむことができない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図解(要約)の中に絵(イラスト)や図(チャート)を入れ、言葉とその意味をイメージで捉えさせる。 ・社会科の専門用語など難しい言葉がでたときに、教師が言い換えて意味を伝えるようにする。 	
中学校1年生	数学	割合
<p>〈つまずきの事例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百分率(歩合)で答えることはできるが、割合、百分率、歩合の表現の違いが理解できていない。 <p>→歩合から百分率に、百分率から歩合に直すことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で割合や百分率、歩合の問題が出されたときに復習として説明をしたり問題を解かせたりする。 ・相対度数の学習の時にも、復習をして、触れる機会を設ける。 ・指導者が数学用語を積極的に使うようにする。 ・視覚的に分かるように図を描いて割合を提示する。 ・子どもが表現の違いを説明する機会を設ける。 ・日常生活の中から、割合を学ばせる。(買い物や分配等) 	
中学校2年生	国語	にていることば
<p>〈つまずきの事例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その言葉を知らない。(生活経験の中で使われていない) ・言葉を聞いたことはあっても、自分の中で意味と関連づけることができていない。 ・文脈から考えることができない。(推測できない) ・選択肢の中から、取捨選択することができない。 	<p>〈指導・支援の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣用句を使いつつ、容易な言葉で言い直して、意味づけを行う。 ・生活経験につなげられるように国語科だけでなく、様々な教科や休み時間などで慣用句等を使って話をする。 	
中学校3年生	国語	あてはまることば
<p>〈つまずきの事例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣用句が身についていない。 ・文章や会話の内容が理解できない可能性がある。 	<p>〈指導・支援の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣用句について調べる時間を設ける。 ・日常の場面と組み合わせ考えられるようにする。 ・それぞれが調べた慣用句をお互いに見られるようにする。 ・クイズ形式にするなど児童生徒が意欲的に取り組めるような仕掛けをする。 	

研修後のお願い

1. 研修情報システムから研修アンケートの入力をお願いします。

入力締切を5月20日（水）としておりますので、必ず入力をお願いします。

2. 「学びの基盤に関する調査」の結果、計画等を踏まえ、児童生徒の支援に向け取組を進めてください。

3. 報告書の提出をお願いします。

(1) 報告書の提出依頼については、令和8年4月16日付け島教教第116号「令和8年度学びの根っこをぐんぐん伸ばすプロジェクト『学びの基盤に関する調査』実施について（通知）」により所管の市町村教育委員会を通じて通知しております。

(2) 児童生徒の「つまずき」に関する支援を実施していただき、通知済の【R8報告様式】により電子データ（エクセル）で提出をお願いします。

(3) 提出締切は、各市町村教育委員会からの通知により確認をお願いします。